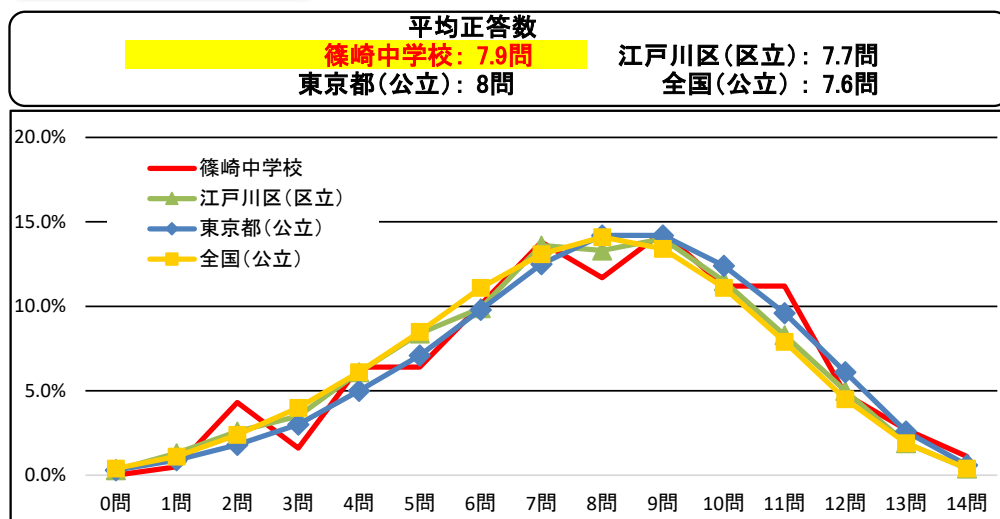


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立 篠崎中学校

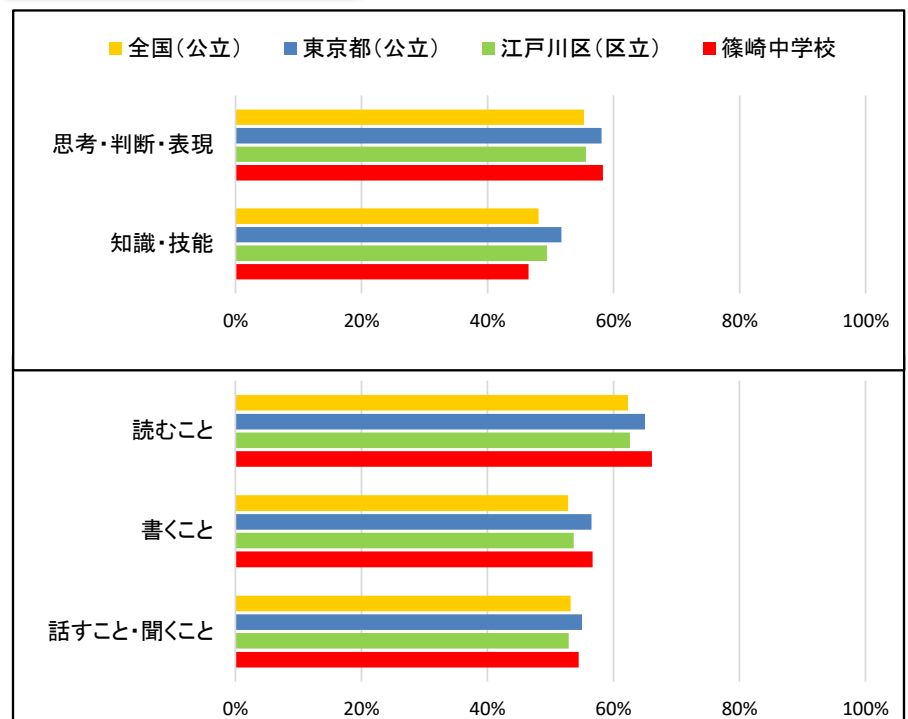
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

篠崎中学校	57%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	0.0

「領域別」の結果

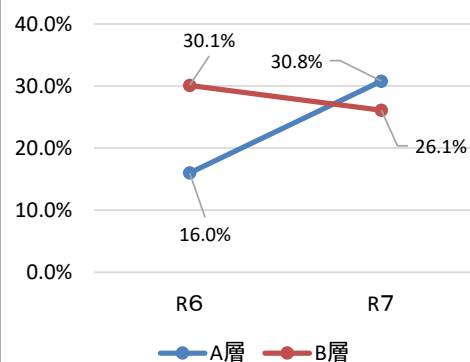


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

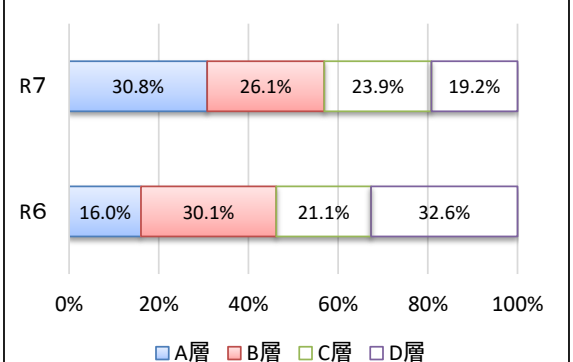
国 語	上位 ←	→ 下位		
	A層 10～14問	B層 8～9問	C層 6～7問	D層 0～5問
篠崎中学校	30.8%	26.1%	23.9%	19.2%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

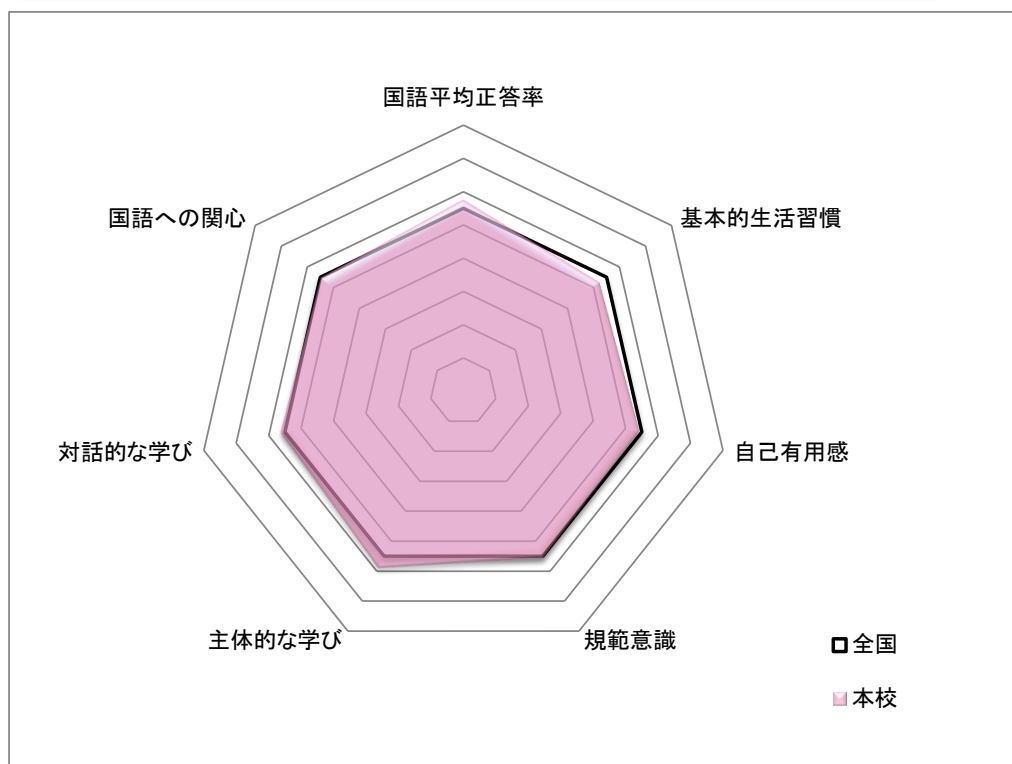
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

主体的な学びや平均正答率は全国を上回る結果が出ている。しかし基本的な生活習慣や国語への関心の項目については全国を下回っており、対策を講じることが求められる。この2項目に関しては、特に授業のメリハリ、生徒の主体性といった部分にも関わってくる項目のため、時間意識や、授業の流れの工夫などを通して改善を図ってきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

基本的な生活習慣の定着に向けた声掛けを継続的に行うとともに、地域学校協働活動の一貫として、地域で子育てや家庭教育に関する相談にのったり、放課後学習教室など授業外での勉強の機会を設けたりなどの活動を通して、家庭・地域・学校の協力関係を強固にしていく。また授業参観や、保護者の方、地域の方が参加して行う授業などの実施により、本校の教育活動を理解していただき、学校だけではなく、地域全体で生徒を育てていく環境づくりに努める。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
AB層の割合は56.9%と全体の半分以上の割合となった。前年度と比較してA層に属する生徒の割合が16%から30.8%と約14%の増加がみられた。B層については前年度より4%の減少が見られるものの、前年度B層に属していた生徒がA層に移行した可能性が考えられる。日々の授業においては、基礎的な学力を身に付けるために継続して漢字テストや文法指導を実施。読解する力についても、作品精読を通じて育成を図っている。さらに生徒の話す力、考えを深める力を伸ばすために、書く場面や話し合い活動の充実を図った。今後もこれらの取り組みを通じて、より学力の充実を図っていく。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ・「ユニバーサルデザイン」を取り入れた教室環境と授業の工夫・改善を行う。
- ・校内研修会において研究授業を実施し、授業の改善を行う。
- ・校外研修会において、授業方法の研究、意見交換を通して効果的な授業方法の実施を図る。
- ・授業研究・準備の時間を確保し、生徒によりよい授業を提供できるように努める。
- ・全教員で反転学習を取り入れ、思考力・判断力・表現力の育成に努めている。
- ・基礎学力の保障
- ・全教育活動を通して、基本的な生活習慣を確立しつつ、学びのユニバーサルデザインも取り入れた自立した学びを可能とする環境を築く。
- ・チャイム始業、チャイム終業を行い、規律ある授業を展開することで、高い学習効果を維持する。
- ・基本的な知識を十分に定着できるよう、定期的な漢字・文法指導を行う。
- ・授業内外問わず、読書習慣の定着を図り、生徒の読解力、識字能力、語彙力の育成を図る。
- ・学習習慣の確立
- ・スタディウィークを活用して、全生徒が学習に取り組む時間を設ける。
- ・生徒の学力、授業内容などに応じて適切な課題を実施し、日々の家庭学習の習慣の定着に努める。
- ・定期的な知識の定着度を図る小テストの機会を設け、生徒の学習の定着度合いを図り、その結果を生徒にも共有し、学習を促す。
- ・AB層の育成
- ・引き続き基礎的な学力の定着を目指し、漢字や文法などの知識について継続的な指導を行う。
- ・記述の問題に対しての苦手意識がまだ見られるため、授業の中でも記述をする機会を増やし、苦手意識を取り除けるように努める。
- ・話し合い活動や発表する場をさらに充実させ、話す力をより伸ばせるように努める。
- ・創意工夫のある授業を実施し、生徒の国語に対する関心意欲を伸ばす。